

【遊びの経過】

保育者の真似をしたり、友達の前で遊んでいる遊びに興味を持ち、同じ動きをしようとしたり、同じおもちゃで遊んだりする姿もみられるようになった。保育者が仲立ちをすると、「どうぞ。」「ありがとう。」などのしぐさをしてかかわりを喜んでいる。

【ねらい】

好きなおもちゃで遊んだり、保育者や友だちの真似をしたりして遊びを楽しむ。

【0歳児の活動】

★環境の構成

■保育者の援助

★落ち着いたあそびが楽しめるよう、見やすく手が届きやすい場所に遊びのコーナーをつくる。

○自分の好きな遊びを楽しむ。



いない、いないばあ。できた。おもしろいなあ。

【驚き】【好奇心】

たのしそうだなあ。

【興味・関心】  
【好奇心】

■一人一人が自分の好きな遊びをゆったりと楽しめるよう見守りながら、楽しい気持ちに共感したり、指さしや表情から思いを受け止めたりするとともに、言葉にして伝えるようにする。

○友だちの前で遊ぶことに興味をもつ。

なんだろう。なんか楽しそう。

【疑問】  
【期待感】



はい、どうぞ。

【人とのかかわり】

■好きな遊びを楽しみながら、自然に友だちとのかかわりがもてるよう声掛けをし、仲立ちをしていく。

■友達の持っているものが、気になって、取り合いになる時は、お互いの気持ちを汲み取りながら声掛けをして気持ちを満たしていきけるよう関わる。

★保育者や友だちがしている姿が良く見えるように大型の「ポットン落とし」を用意する

入るかなあ。

【没頭】



よし。入った。

【意欲】【満足感】

してみようかなあ。

【興味・関心】  
【意欲】

★一人一人がやりたい遊びを楽しめるようおもちゃを十分に用意する。

■保育者がして見せたり、友達の様子を知らせたりして、興味をもてるようにする。

■うまく穴に入らない子どもには、必要に応じて手を添えるなど、「できた。」という満足感が得られるようにする。

■「入ったね。楽しいね」と楽しさを共感し、まわり子どもにも知らせて興味関心を広げていく。

【評価】

- ・自分の好きなおもちゃを見つけ、思い思いのやり方で楽しんでいる。
- ・保育者や友だちの前で遊ぶ姿を見たり、やってみようとしたり、真似をしようとしたりしている。